

THE CITY OF YOKOHAMA

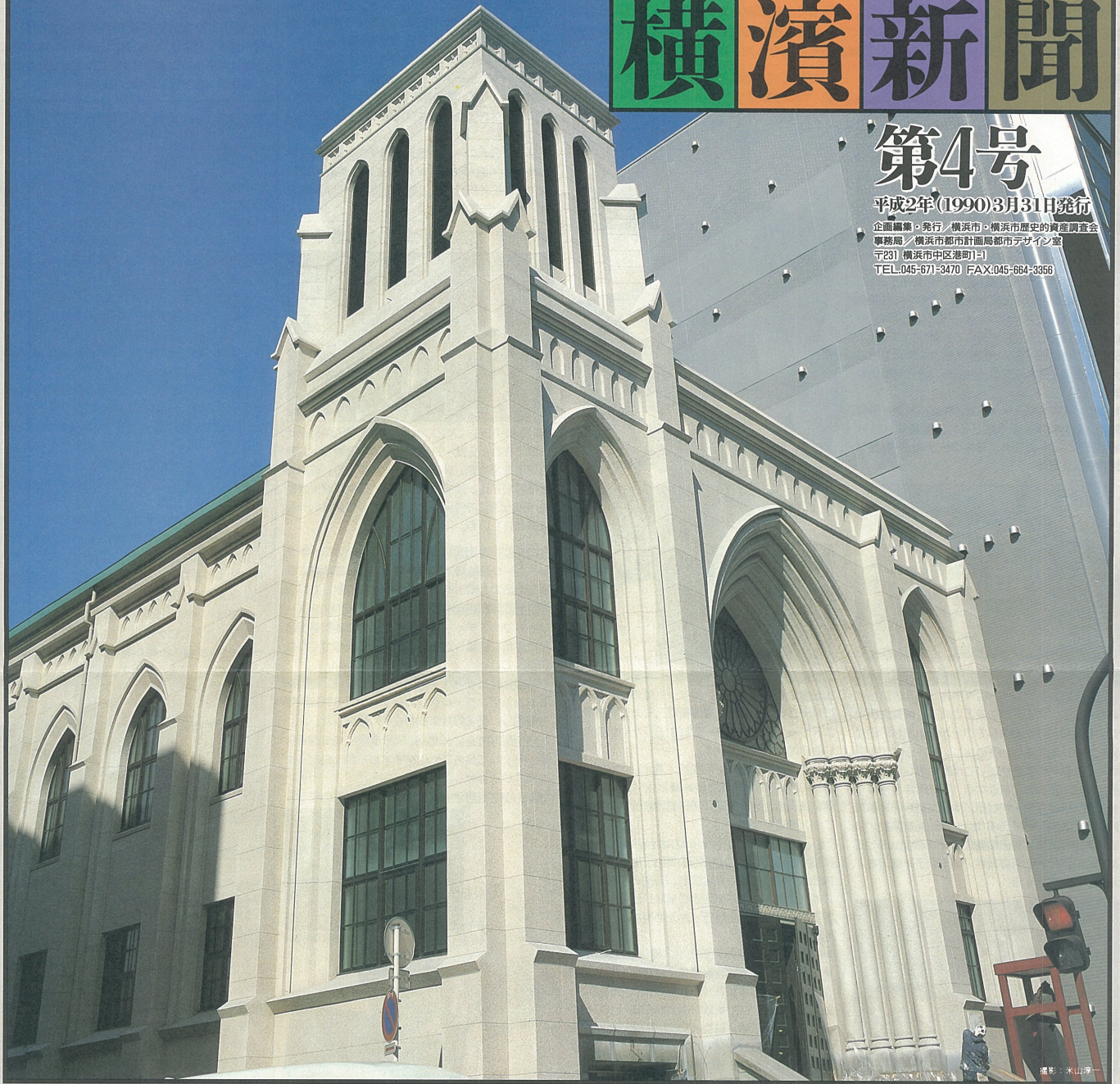
歴史を生かしたまちづくり

横濱新聞

第4号

平成2年(1990)3月31日発行

企画編集・発行／横浜市・横浜市の歴史の資産調査会
事務局／横浜市都市計画局都市デザイン室
〒231 横浜市中区港町1-1
TEL:045-671-3470 FAX:045-684-3356



よみがえるゴシック

吉田綱市

(横浜国立大学助教授・横浜市歴史の資産調査会調査委員)

横浜指路教会の会堂が、大正15年の創建時に近づくような形に修復された。ぜひ一度訪れてほしい。この教会は、ヘボン式ローマ字にその名を残すヘボン博士ゆかりの極めて古い歴史をもつプロテスタント教会で、建物も横浜に現存する教会建築ではいちばん古いのだが、一般の人にはもう一つ知られていない。その理由の一つは、たぶんこの教会堂がビジネス街に位置しているからだろう。国道16号という幹線道路に面していて、散歩のついでにおよと寄るといふ親しまれ方が望みにくい。それからもう一つは、その形があまりにオーソドックスで、「まあ、かわいいっ」というわけにはいかないからかも知れない。

実際、この建物の外観はフランスの正統的な初期ゴシックの教会建築をほぼ忠実に鉄筋コンクリートで再現したもの。ゴシック建築発祥の地はフランスだから、指路教会の会堂はゴシックの祖型。ジャムと呼ばれる円柱が連続して舟底形のポーチを形づくる正面中央、側面のバトレス風の柱形と尖頭アーチ窓の交代など、まことによくゴシックの雰囲気が出されている。

しかし鐘塔は、向かって左に一つしかない。何だか片腕をもがれたような気がするが、これは創建当初から。そもそも、正面の二つの塔をもつ教会堂で左右の塔が同形の方が少数派。シャルトルの左右の塔は全然違うし、アミアンだってかなり違っている。若きゲートを絶讃せしめたストラスブールの大会堂は、横浜指路教会と同じく右の塔を欠いている。そしてゴシック発祥の地とされるサン・ドニの大会堂。これも左の塔を欠いている。指路教会は、このサン・ドニの外形を模し、個々の造形には

パリのノートル・ダムを手本としたのかも知れない。

とまあ、ゴシックの大モニュメントの名ばかりあげるとますます敬遠されそうだが、実は「かわいいっ」建物なのである。なにせ、いまこの境界でいちばん小さな建物なのだから。

歴史のある都市には、高いビル街の一面に古くて小さな建物が必ず残されているものだ。それはビジネス街のエア・ポケットであり、オアシスなのである。戦災で簡略化された細部を復元して修復なったこの指路教会は、齢65にして再生した。今後永くオアシスであり続けるだろう。

横浜指路教会(保全改修工事完成)

同教会は竹中工務店設計・施工、大正15年竣工。正統的な初期フランスゴシック教会の様式をほぼ忠実に鉄筋コンクリートで表現している。今回の改修工事では外壁の装飾の復元などを行った。平成元年3月横浜市認定歴史的建造物となる。ライトアップの常設化も実現した。

歴史の香りを現代に伝える 第3回まちなみ景観賞 / 第5回まちづくり功労者賞

毎年恒例のまちづくり功労者賞と、2年に1度のまちなみ景観賞の受賞者・作品が、さる1月29日に発表となりました。

快適で文化的な都市づくりを進めるうえで、まちづくりに貢献した人・団体・作品のうち功労者賞で9件、景観賞で10件が受賞。その中でも、まさに歴史の香りを伝える試みがいくつが含まれており、今回の顕彰によってさらに価値あるものになったといえます。

●第3回 横浜まちなみ景観賞



【パークシティ本牧】敷地の共同化を図り、ゆとりのある空間を持った集合住宅。その中にあるクラブハウスは、アントニン・レーモンド設計の「旧山手250番館」を復元したもので、新しいコミュニティの場に横浜らしい歴史の香りを添えている。大きなケヤキ並木を取り入れる等、豊かな環境を演出している。

▶部門/A(まちなみ)▶所在地/中区本牧原▶事業時期/昭和63年▶事業主/三井不動産㈱▶設計者/三井建設▶施工者/三井・関・五洋・熊谷・奥村建設共同企業体



【横浜開港記念会館】横浜開港50周年の記念建造物として、大正6年に竣工される。関東大震災により屋根部分を消失していたが近年原設計図が発見され、60年振りにその美しいドーム群が復元された。横浜の原風景として市民に親しまれている。国指定重要文化財となる(平成元年9月)。

▶部門/B(建築物)▶所在地/中区本町1-1▶事業時期/大正6年・平成元年(屋根復元)▶事業主/横浜市▶原設計者/福田重義(コンペ原案)山田七五郎(実設計)▶図面寄贈者/城千恵子▶施工者/清水建設㈱横浜支店



【横浜マリタイムミュージアム】(帆船日本丸)歴史的な土木遺産である石造りドックの保存・活用を行い、帆船日本丸を保管している。これを囲むように建てられた博物館(横浜マリタイムミュージアム)は、日本丸の景観を配慮し低層でデザインされている。

▶部門/C(その他)▶所在地/西区みなとみらい2-1▶事業時期/平成元年▶事業主/横浜市▶設計者/三豊地所㈱▶施工者/大成・大林・フジタ・山岸・馬瀬 建設共同企業体



【色彩復元した水川丸】港のシンボルとなっている水川丸がかった姿に塗装替えされ、山下公園・港の雰囲気・格調を高めている。

▶部門/C(その他)▶所在地/中区山下町▶事業時期/昭和63年(塗り替え)▶事業主/氷川丸マリナータワー㈱



大倉山エルム通り



かしの木台ハイツ



緑園都市四季の径



マイカル本牧



聘珍楼



磯子アベニュー



【大倉山エルム通り】地域のシンボルである大倉山記念館をモチーフに、ギリシャ風のファサードに統一された商店街。壁面後退、ミカゲ石舗装、ストリートファニチャー等による安全で快適な歩行者空間を形成している。

▶部門/A(まちなみ)▶所在地/港北区太尾391~419▶事業時期/昭和63年▶事業主/大倉山山口商業協同組合▶設計者/鹿島建設㈱横浜支店▶施工者/鹿島道路㈱

【かしの木台ハイツ】(しいの木台ハイツ)隣接する地区公園の自然(緑・池)と連続する敷地内の保存緑地を持つ集合住宅。公園と小学校を結ぶ道路の開放や周辺環境との調和が図られている。開発時に表土の保全を行ったため樹木の生育状況も極めて良い。

▶部門/A(まちなみ)▶所在地/緑区在田南1丁目▶事業時期/昭和58年▶事業主/神奈川県住宅供給公社(かしの木台ハイツ)横浜市住宅供給公社(しいの木台ハイツ)▶設計者/株式会社ハウジングシステム▶施工者/飛鳥・富士・山岸建設共同企業体(かしの木台ハイツ)青木建設㈱、㈱宮本工務店、㈱松尾工務店、㈱大林組(しいの木台ハイツ)

【緑園都市四季の径】四季を感じさせる花・木があふれる住宅地の伸びやかな歩行者専用道路。沿道住宅の配置構成、コモングリーンとあいまって地域コミュニティの軸となっている。

▶部門/A(まちなみ)▶所在地/泉区緑園6丁目▶事業時期/昭和61年▶事業主/中川第1土地区画整理組合▶設計者/相模鉄道㈱▶施工者/相模建設㈱

【マイカル本牧】5つの街区をスペイン風のデザインで統一したショッピングセンター。ペダストリアンデッキで有機的に各ビルが連続するほか、ライトアップによる夜景の演出も行われている。

▶部門/B(建築物)▶所在地/中区本牧原▶事業時期/平成元年▶事業主/㈱ニチイ▶設計者/大成建設㈱▶施工者/大成・清水・奥村・西武・関・建設



上大岡グリーン通り

十日市場駅前広場

共同企業体

【聘珍楼】活気溢れる中華街の中で、唯一建物の前面に広場を設け、道行く人々に安らぎを与えている。

▶部門/B(建築物)▶所在地/中区山下町149▶事業時期/昭和62年▶事業主/㈱聘珍楼▶設計者/㈱丹青社▶施工者/大成・丹青社 建設共同企業体【磯子アベニュー】かつて海岸線であったという特徴を生かして、湧水を活用したせせらぎを導入。道の整備がきっかけとなり周囲の町並みも変わりつつある。

▶部門/C(その他)▶所在地/磯子区磯子3丁目▶事業時期/昭和62年▶事業主/横浜市▶設計者/㈱象設計集団▶施工者/㈱加藤組 小原建設㈱ 寿建設工業㈱

●第5回 横浜まちづくり功労者賞



【横溝和子氏】この住宅は、幕末～明治中期までに建てられた主屋・長屋門などの建造物が、周囲の環境を含めて、ほぼ完全に残っている。前所有者横溝和子氏が建物を市に寄贈。建物は歴史公園「みその公園」内の施設として修復・整備され一般公開されている。

【本町通商店街協同組合】アーケード改築・ポケットパーク設置等まちなみ整備を通じて地域に密着した活力と魅力あるまちづくりに貢献している。

【藤柳銀座商店街協同組合】車道のS字化・ストリートファニチャーの設置等のまちなみ整備を通じて地域に密着した活力と魅力あるまちづくりに貢献している。

【株式会社ニチイ】新本牧地区において、魅力あるショッピング・レクリエーション・公共施設等を整備し、創造的なまちづくりに貢献した。

【上中里町内会】緑の街づくり事業のモデル地区第一号として民有緑地化をすすめる、潤いのあるまちづくりに貢献した。

【磯子台住宅自治会】緑の街づくり事業のモデル



本町通商店街



藤柳銀座商店街(緑柳一街角)



マイカル本牧



上中里住宅地



磯子台住宅地

地区第一号として民有緑地化をすすめる、潤いのあるまちづくりに貢献した。

【上大岡グリーン通り会】歩道拡幅・光ファイバー埋込のさらさら広場の設置等まちなみ整備をすすめる、地域活動に積極的に取り組み、潤いのあるまちづくりに貢献した。

【十日市場地区市街化促進協議会】十日市場地区の区画整理事業の推進に尽力し、街の発展と活性化に貢献した。

【上飯田モデル住宅地建築協定運営委員会】昭和42年に戸建住宅地における建築協定を全国に先駆けて締結し以来20余年にわたって活動を継続し居住環境の保全に貢献している。

2号ドックの解体調査が進行

地上約300メートルの日本一の超高層ビルと、明治時代につくられた石造ドックが一体となり、平成5年「みなとみらい21」25街区に出現します。これは、地権者である三豊地所株式会社が計画しているもので、最新技術と歴史的価値の融合は、これからのまちづくりの方向を示しているものといえるでしょう。

さて、この石造ドックは「旧横浜船渠第2号ドック」と言い、この計画の中で保全活用されることにより、平成元年4月、横浜市認定歴史的建造物として認定されました。

平成元年12月から、このドックは将来の保存に備え、石の取り外しなどの調査にとりかかりました。約16000個ある石一つ一つに番号をつけて、約1年間ははがしていく作業です。また、石積み裏の裏込め目地モルタルの材料試験などもあわせて行っており、それらによって将来の保全活用を万全のものにしていくというのです。この調査は、横浜市歴史的景観保全委員(代表委員・村松貞次郎法政大学教授)の専門部会の指導を受け、学術的にも確かなものをめざしています。3月には現地での調査を終了し、データの分析、報告書の作成などまとめに入ります。

とりはずされた石の一部は、4月28日から開催される「ハルセロナ区ヨコハマ シティ・クリエーション」会場へと続く通路(フォレスト・Bay)に展示されることになっています。



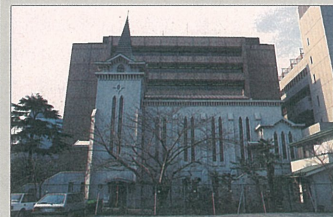
解体調査中の2号ドック

「横浜海岸教会」が認定を受ける

大磯橋の入り口にある「開港広場」の隣に白い壁と三角屋根が印象的な教会があります。この「横浜海岸教会」が、去年の12月、横浜市の認定歴史的建造物として認定されました。

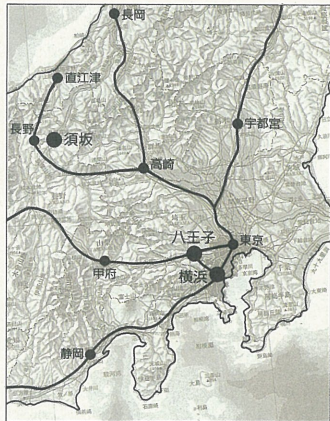
将来の保全活用の方針では、その美しい外観全体を守るため、隣接する開港広場と道路に面した外壁と面を中心として、現況のまま保全していくことになりました。また敷地内には、教会の歴史を物語る記念碑や記念樹も多く残されているため、こうしたものを大切にしながら、隣接する開港広場とともに、まちなみにうらおいをあたえる魅力的な空間として魅力を増していくこととなります。

横浜では、昭和63年度に施行された「歴史を生かしたまちづくり要綱」に基づき、歴史的建造物の所有者の方々のご理解を受けながらその活用を進めており、認定歴史的建造物は、今回の「横浜海岸教会」のほか「日本火災横浜ビル」「旧横浜船渠第2号ドック」「横浜指路教会」「カトリック山手教会」のあわせて5件となりました。



上飯田住宅地

絹の道が結ぶ 街並み保存のネットワーク



4 階の蚕産倉庫 (大正15年)



横浜農林水産省合同庁舎(旧生糸検査所) (大正15年)



旧生糸検査所のカイコモチーフとしたレリーフ

絹という、それは国際港湾都市横浜を育てた栄誉ある貿易品で、横浜の近代史をたどるとき、欠かすことのできない主である。生糸貿易を支える生産、集荷、運搬、流通などによって経済的な発展をとげた地域はほぼ東日本全域におよび、現在でも各地の街並みに、当時の富を象徴する風情が残されている。それらは、横浜港から輸出された生糸に支えられていたと考えられるものも数多くある。今回は街並み保存を生糸の関連で考えてみた。

横浜の都市景観と絹の道

横浜が開港される以前の江戸時代、横浜市域をどんな道が通っていたかを見てみると、東海道及び、それと平行する道は3本あり、いずれも江戸を出発点として目的地を横浜以外の場所(たとえば京都)としている。それらの道と直角に交わる道を見てみると、ほとんどの道が、八王子に通じ、起点を神奈川湊としている。これは、当時いかに神奈川湊が重要な地であったかを証しているのだが、その点は今回の本題ではない。

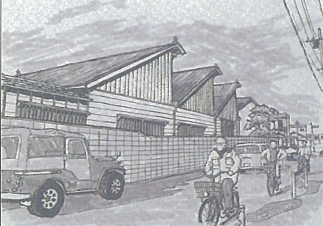
つまり、神奈川の一部という言葉に誤って誕生した横浜港は、江戸時代末期に形成された、古道のネットワークをそのまま活用して国際都市として成長していったということだ。特に横浜が開港してあつた間に生糸が輸出品のチャンピオンとして台頭すると、これにつれて、蚕糸業地帯は革命的な繁栄をとり、その昔神奈川湊をめざした街道は横浜港をめざす絹の道に衣替えした。その取引方式は当初は居留地貿易で、基本的には生産者→

地荷主→横浜売込商→外国商館のルートで運ばれていた。外国商館では特に英一番館や現在山下公園通りに震災前の商館建築の一部を残す英七番館(戸田平和記念館)などの活躍が記録されている。また国営模範工場「富岡製糸工場」の設計者 E・A・バスチャンは、山手128番に建築工事事務所を開き、山手外人墓地に眠っている。

一方、生糸の輸出は、横浜の経済界にも大きな富をもたらした。文化遺産として今日に伝えられているものも多々ある。その代表格が何となくも代表的生糸商の原富三郎の養子となった原富太郎の活動である。彼が開いた三溪園は現在国指定の重要文化財となっている建造物10件に加えて、庭園は西の桂離宮と比較されるほど見事なものだ。そのように金があるからといって、単なる成金にはならず、深い教養に裏づけられた文化人を、明治の横浜は輩出している。またアルデコの装飾を残す横浜松坂屋も、生糸商茂木惣兵衛が開いた野沢屋を前身としている。生糸の貿易も明治10年代になると、直輸出への志向が盛んとなり、三井物産等の貿易商が躍進する。我が横浜の近代建築の誇りである日本最初の鉄筋コンクリート造オフィスビルとして名高い三井物産横浜ビルもこうした経緯の中で建てられていた。そして忘れてならない近代建築が、現在農林水産省合同庁舎として使われている旧生糸検査所である。現在の建物は、遠藤光太郎(えんどう・おと)の設計になり、関東大震災後の大正15年第1期工事、昭和7年に第2期工事が完成し、両ウイングをせり出した左右対称の形となった。戦後の改修により装飾らしいものは正面上部にあるカイコを形どったレリーフ程度となってしまったが、創建当初の姿をイメージするには、背後に残っている帝産倉庫事務所と4棟の倉庫を参考にするといい。



三井物産横浜ビル(明治44年)



絵: 関谷真一 (八王子・まちかど研究会、八王子ランドマーク研究会)

これら絹に関する近代建築の他にも、関内、山手地区には多くの歴史的遺産が残っていて、まだまだ思いもかけぬ歴史的事実が私たちの見えないうところで眠っている。また横浜港の貿易を支えた後背地の歴史的遺産は、絹の道と通称される道をたどっていくと、おもしろい事実が発見されるかもしれない。機会を見つけてそんな道を歩いてみたい。(今井信二)

「仕かけ」に動き回る 柳川佳正 (八王子ランドマーク研究会)

八王子は都下で唯一地方都市の趣を有する街で、かつ、盆地故に河川、湧水等の水の豊かな街である。いや、過去そうであったと言うべきだろう。近年の都市化との圧力の中で、機屋、湧水、雑木林等八王子らしさを形造っていた要素は次々と消え去り、河川の汚れが進み水量も減少していった。そうした現状を何とかしようと結成されたのが当会である。発足は一昨年の七月、現在会員は約60名、内8割は八王子市職員、残りが市民という構成である。活動内容を紹介します。《まちかどの研究》市内に残る歴史的建物を発見し、その存在を周りに知らせる。それを絵ガキにして普及したり、民家の塀を借りてパネル展を

開いている。《湧水の再生》ゴミ溜と化した湧水池の清掃をしたり、町会と一緒に湧水の再生、エコアップしようとしている。湧水戸籍(白書)づくりも計画中。《雑木林の管理》地主さんの好意で林の手入れをさせてもらい、雑木林の管理を市民の手で出来ないか検証中。炭焼にも挑戦、炭とその技術を現代的に復活させる対策を探る。その他水問題自主ゼミ、河川子供発見団等を実施しない計画である。以上、市民と行政が一体となってまちづくりを進める梁山泊たらんと、八王子中を「仕かけ」に動き回っている。

シルクロード基点のまち 中野博勝 (信州須坂町並みの会幹事・事務局)

「信州須坂町並みの会」が発足して早や丸三年が過ぎました。「須坂にも良さがある。大切にしたい歴史や文化がある。そして連続と続く町並みがあるじゃないか……。忘れていた町を見直し、市民が自信を持ってより良い町づくりを考え、楽しい住み良い住環境をつくり次代へ伝えよう」との願いを込めて、昭和61年11月24日、会が発足し現在会員は200余名を数えるに至っています。地図をつくり、パンフレット、本、町並みめぐり、町並みガイドマップ講習会、町並みフェスト等々と会員の自主的なボランティア活動により徐々に町並みの良さ、大切さが市民にも伝わっていきました。行政においても、一昨年はナショナルトラスト調査、昨年は文化庁の伝建調査を行いました。さらに本年明治期からの豪商の館日本藤家の取得により、現在の町並みを大切に都市計画作業も行なわれています。須坂には土蔵作りの家並みが数多く残っています。その数は200とも300とも言われ、倉敷、喜多方等以上の魅力があると今、専門家の皆さんから注目されています。

須坂は城下町として栄え、その後明治期において、製糸業で繁栄、日本の近代化と国際化に寄与したシルクセンターです。当時須坂の生糸生産が横浜に運ばれ、海を渡りました。その意味では近代シルクロードの基点の町と言えます。今も豪荘な土蔵作りの町並みが、明治維新期を築き、活躍した先人達の心意気を伝えています。私達はこのかけがえのない大切な地域の文化や財産を見つめ直し、単に観光の為ではなく、心豊かな住民の住みよい住環境整備を願い、会の活動を地道に続けて行きたいと思っています。



横浜の歴史を愛する市民の活動

横浜家具を通して文化を考える会

横浜元町の家具を再評価し、あわせて生活文化を考えていこうという主旨で、昭和61年にスタート。会員は、家具に興味をもつ会社員、公務員、会社商店経営者、自由業、大学博物館関係者など約100人。《活動》古い建造物の内装・家具を見学し、調査する会を隔月で開催する。また家具に関する情報収集、資料収集を始め、収集した家具の保管も行っている。昭和63年には横浜洋家具の展覧会を開催。将来の夢は、横浜に家具の博物館をつくること。

保土ヶ谷宿400倶楽部

宿場町としての歴史を掘り起こし、現代的に解釈し直して、新しい保土ヶ谷らしさづくりをすすめていこうと、昭和62年に地元的设计士、商店主、郷土史家、区職員が中心となり発足した。《活動》本陣の想像復元図や幕末の本陣周辺の町並の復元図をつくることと同時に、この地域の景観を新しい視点で修復していくための景観ガイド・プランづくりもめざす。また宿場をテーマにした創作やコンサートを開催。倶楽部の命名の由来となった保土ヶ谷宿400周年(2001年)には、東海道宿場サミットを誘致したり、宿場博物館をつくらうことがスタート。

ヨコハマ洋館探偵団

「横浜の洋館を愛する会・あしたば会」が前身。昭和63年に、横浜の西洋館への理解を広めるために、「広報よこはま中區版」を通じ運営委員を募集し、8人でスタートした。現在会員は、約60人。《活動》平成元年には、「西洋館の楽しみ方入門」をテーマに、連続講演会や洋館ウォッチングを開催。会場には、それぞれ横浜らしい歴史的建造物を選んでいる。また西洋館ウォッチングの出前も引き受ける。今後は、洋館の調査研究も予定している。

まいおか水と緑の会

戸塚区に建設されている都市自然公園づくりに、住民側からの参加をめざしている市民団体。昭和58年に発足。《活動》舞岡川流域の源流部「舞岡谷戸」を活動の場として、谷戸の自然景観や古民家などが点在する歴史的景観を含め、農的生態系を市民の手で保全・再生することを目標とする。雑木林・水田・生物・農芸・映像・広報のチーム編成で活動にあたり、会報の発行や谷戸の年中行事に加えて数々のイベント、地元のお老からの聞き書きによる民俗調査などを行う。市民による市民のための公園「舞岡公園」の実現をめざして奮闘中。

1992年にオリンピックの開催を控えたスペインのバルセロナ市が、建築・芸術・デザインを中心としたまちの文化的な蓄積を世界に紹介するため、世界十都市を舞台に「バルセロナ・クリエーション」を繰り広げます。

その最初の開催都市に選ばれた横浜市では、横浜の歴史や文化を生かしたまちづくりを同時に紹介する場として、「みなとみらい21」地区内の横浜美術館とその周辺を会場に横浜市とバルセロナ市の共同プロジェクト「バルセロナ&ヨコハマ シティ・クリエーション-BAY'90」を4月28日から開催します。

バルセロナには優れたまちづくりの成果や数々の名建築が残されています。スペインの生んだ天才建築家ガウディも、この地に数々の作品を残しています。そこで今回は、「BAY'90」に先立ち、バルセロナの歴史的な魅力あふれるまちなみをご紹介します。

バルセロナ讃歌 吉田綱市 (横浜国立大学助教授)

カタロニアから出た人の作品は、なぜかひどく心をそそる。人間のいちばん奥深い感覚を理屈ぬきにゆさぶる。あのギョロリとした眼で文字通り膨大な仕事を残したピカソ、鼻歌みたいなものを歌いながらチェロをブンブン弾きまわすカザルス、子供のいたずら絵の拡大版のようなものばかりを描いたミロ、そして生々しい動物の骨のような軀体を持ち、動物の胎内のような内部をもつ特異な建物をつくり続けたガウディである。

そのガウディを見に三度バルセロナへ行った。最初は、とにかく口あんぐりのびっくり仰天。二度目はいくらか余裕も出て、まわりの建物にも似たものがあるのに気づく。今日ではスペインのオール・ムーヴメントと位置づけられる「モデルニスモ」運動の中から生まれた作品群である。そう、一曲ぐらいはモーツァルトの作品と間違えられる「駆けぬげる悲しみ」の旋律をつつた同時代の作曲家がたくさんいたように、一棟ぐらいはガウディと見紛う建物をつくったモデルニスモの建築家も何人かいたのだ。

といいつつ、やっぱりガウディはずこい。だから三度目は、再び口あんぐり。ちょうどそのころ流行っていたアラン・パーソンズ・プロジェクトの「サグラダ・ファミリア」(LPレコード「ガウディ」所収)を聴いて、その教会を見と涙が出てきそう。ガウディがガッパドキアでいまなお石を掘っているというガウディ不死伝説も信じたくなる。ただサグラダ・ファミリアの建物自体は、だんだんガウディから離れて普通のゴシック風教会になっていくようじゃちょっと残念。あの工事は続けるべきか否か、難かしい問題だ。それも、つまりはガウディの並外れた天才のゆえ。

しかしバルセロナはガウディのみの街ではない。古代・中世の遺跡をもつ古い都市、ヨーロッパ屈指の港口、そしてスペイン中央をしのぐ高い文化を有するカタロニアの首都である。中世の面影をとどめる入り組んだ街区があり、眺望のすばらしい丘があり、心躍る海岸通りがある。

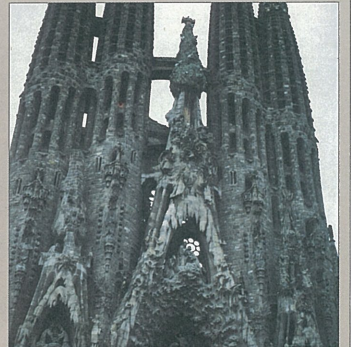
そのバルセロナが横浜にやって来る。「バルセロナ&ヨコハマ・シティ・クリエーション」である。名古屋城に一足先にやってきたガウディも、装いを改めて来るだろう。ヴィヴァ/ガウディ。ヴィヴァ/バルセロナ。



▲モンジュイックの丘からスペイン広場を見る。二つの塔はヴェネチア風



▲カタロニア美術館。ロマネスクから近世までのカタロニア美術を展示。建物は1979年の博覧会の時のもの



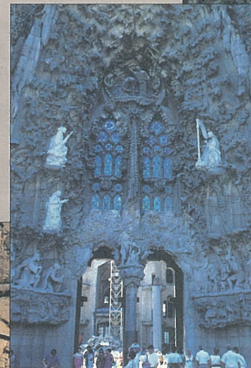
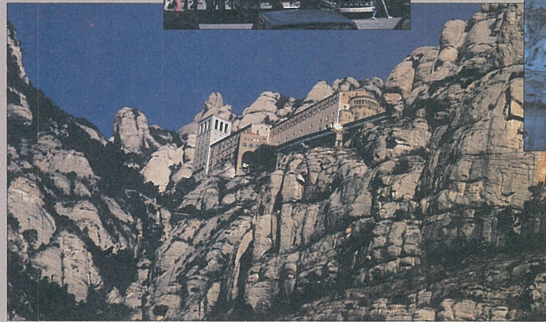
▲サグラダ・ファミリア、東側トランセプト入口(1973年)

◀同(1988年)。彫刻が増え、青いガラスが入れられて、ちょっとキツッぽくなった。



▶中世のバルセロナの核、カテドラル。概ね15世紀半ばの完成

▼ガウディの造形にインスピレーションを与えたとも言われるモンセラー(バルセロナ西北約40km)の山塊

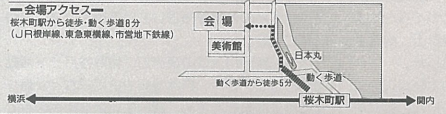


BAY'90 バルセロナ&ヨコハマ シティ・クリエーション

1990

4月28日(土) → 7月1日(日)

●会場:「みなとみらい21地区」
横浜美術館・グランモール公園周辺
●問い合わせ先:
バルセロナ&ヨコハマシティ・クリエーション実行委員会 事務局
TEL.045-671-3851



前売券好評発売中
一般—1,300円(当日1,500円)
大・高校生—800円(// 1,000円)
中・小学生—300円(// 400円)
(前売期間は4月22日まで 市内プレイガイドでお求め下さい)

バルセロナの宝箱、世界に先駆け初公開

バルセロナ・クリエーション
バルセロナ市企画による展覧会。バルセロナの歴史、文化、芸術、都市開発、デザイン等を紹介。ヨコハマを発売し、世界10都市を巡回予定。

ヨコハマ・クリエーション
ヨコハマを舞台に、シンポジウムや展覧会、新しい都市と生活を提案。最新都市デザインに触れる。

ワールド・クリエーション
世界の港湾都市からウエスタン・ポートの開発や建築文化の最新潮流を現地取材により紹介。

バルセロナ特別美術展
ピカソ、ミロから現代作家まで、バルセロナゆかりの美術品の中から日本未公開の作品を中心に展示。

シティ・エクス・ペリエクス
アーティスト、企業が新しい街デザインを提案。最新の商品、レストラン、カフェ等が楽しめる空間。ショッピングや飲食が楽しめる空間。



主催:バルセロナ&ヨコハマ シティ・クリエーション実行委員会

+横浜市+バルセロナ市